

茅ヶ崎市美術館 開館20周年記念 第3弾

版の美―板にのせられたメッセージIII

「現代版画の可能性」

開館20周年を迎えた茅ヶ崎市美術館では、本年度は「版の美―板にのせられたメッセージ」と題し、木版画の魅力シリーズでお伝えしています。絵師、彫師、摺師などの分担作業によって制作されていた江戸・明治期の浮世絵版画。その後、欧米からの刺激を受けつつ「自画、自刻、自摺」を合言葉に作家自身が制作の全作業を行う個の表現性を重視し、明治末期から大正期にかけ版画の芸術作品としての位置を確固たるものとした「創作版画」。そして、更なる版画の可能性を追求しつづける現代の表現者たち。シリーズ第3弾となる本展は、茅ヶ崎市美術館が所蔵する版画作品のうち戦後から現代に至るまで制作された木版画を中心に約200点を紹介します。童画家であった武井武雄(1894-1983)が主宰し、1935年から20年余続いた版画による年賀状交換をしたグループ「^{はん}榛の会」、日本版画会の創立に貢献し、版画による色彩表現を探究しつづけた馬^{まぶちとおる}淵聖(1920-1994)、木口木版画家であり文筆家でもある多彩な表現をみせる柄^{からさわひとし}澤齊(1950-)らを取り上げ、それぞれの作家が魅せる木版画の可能性を探ります。また、特別企画として、版画(シルクスクリーン)の手法を用いながら、立体的な作品を生み出し注目を集める若手アーティスト小野^{こうせき}耕石(1979-)の作品を展示いたします。そして、2019年2月10日からは第4弾として、シリーズの掉尾を飾る「創作版画の系譜」展を開催いたします。版画の世界がみせる「版の美」を年間通しお楽しみいただければ幸いです。

| 展覧会概要 |

- 会 期 2018年12月9日(日)～2019年2月3日(日)
- 時 間 10時～17時(入館は16時30分まで)
- 休館日 月曜日(ただし、12/10、12/24、1/14は開館)、12月27日(木)～2019年1月3日(木)、1月15日(火)
- 会 場 茅ヶ崎市美術館 展示室1・2・3
〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北1-4-45
- 観覧料 200円(150円) 大学生:100円(70円) ※()内は20名以上の団体料金
※高校生以下、市内在住65歳以上の方、障害者およびその介護者は無料
- 主 催 公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団
- 協 力 東京パブリッシングハウス、イルフ童画館、養清堂画廊

開館20周年記念事業「版の美―板にのせられたメッセージ」について

茅ヶ崎市美術館では平成30年度、開館20周年記念事業として年間を通じ、4つの企画展からなる「版の美―板にのせられたメッセージ」を開催しています。第Ⅰ期として館蔵品により浮世絵から新版画にいたる流れを概観した「浮世絵・新版画―幕末～昭和」。第Ⅱ期として知られざる大正期の新版画作家、小原古邨を国内で初めて紹介した「原安三郎コレクション 小原古邨展 ―花と鳥のエデン―」。第Ⅲ期と第Ⅳ期は展覧会スケジュールを変更し、第Ⅲ期は「現代版画の可能性展」。シリーズ企画の掉尾を飾る第Ⅳ期は「創作版画の系譜展」を開催します。

【本展に関するお問い合わせ先】

茅ヶ崎市美術館 担当学芸員:藤川 悠 広報担当:城之内さき

TEL:0467-88-1177 FAX:0467-88-1201 E-mail:bijutsukan@chigasaki-arts.jp

本展のみどころ・ポイント

- 1 当館コレクションの木版画を中心に約200点展示！
- 2 著名な版画家たちが参加した知られざる「^{はん}榛の会」の作品をまとめて公開！
- 3 注目の若手アーティスト・^{こう せき}小野耕石の大型作品を特別展示！

関連イベント

※申込制のイベントは、12月9日(日)10:00より美術館受付またはお電話にてお申し込みください(開館時間内)。
※取材希望の方は事前にお電話でお問い合わせください。

◆子ども向けワークショップ 「紙版画でつくる^{ぞうしよひょう}蔵書票」

申込制

自分の大切な本に貼る蔵書票。ボールペンやニードルという道具を使って、子どもから楽しめる紙版画作り。

講師：城戸宏さん(リン版画工房)

日時：2018年12月23日(日)13:00～15:00

会場：美術館 2階 アトリエ

対象：小学生～大人(小学3年生以下は保護者同伴)

定員：16名(申込制/先着順)

参加費：1,000円



◆大人向けワークショップ 「木口木版でつくる^{こぐち もくはん}蔵書票」

申込制

15世紀、ドイツで誕生したといわれる蔵書票。自分の大切な本に貼る、世界で1つの蔵書票を木口木版で作ります。

講師：城戸宏さん(リン版画工房)

日時：2019年1月14日(月・祝)13:00～16:00

会場：美術館 2階 アトリエ

対象：18歳以上

定員：12名(申込制/先着順)

参加費：2,500円



◆アーティストトーク

出展アーティスト・小野耕石が展示作品について語ります。

日時：2018年12月16日(日) 14:00～(40分程度)

会場：美術館 エントランスホール

料金：無料(要観覧券/事前申込不要)

◆ギャラリートーク

展覧会担当学芸員が会場を巡りながら、展示作品を解説します。

日時：2018年12月21日(金)、2019年1月6日(日)

各日14:00～(1時間程度)

料金：無料(要観覧券/事前申込不要)

【本展に関するお問い合わせ先】

茅ヶ崎市美術館 担当学芸員：藤川 悠 広報担当：城之内さき

TEL:0467-88-1177 FAX:0467-88-1201 E-mail:bijutsukan@chigasaki-arts.jp

特 別 展 示



現在注目を集めるアーティスト・小野耕石こうせきの大型作品を展示！

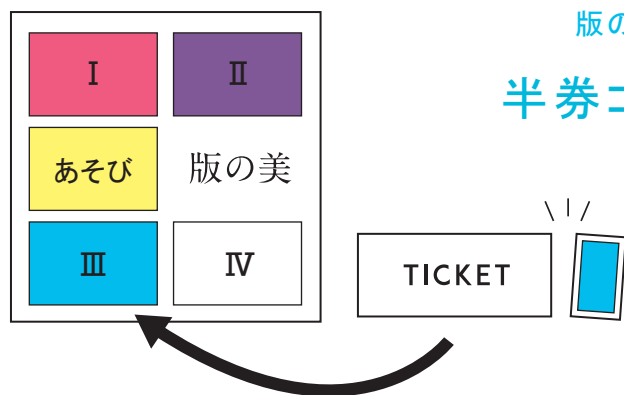
版画(シルクスクリーン)の手法を用いながら立体的な作品を生み出し注目を集める若手アーティスト小野耕石。数十～百回と版を刷り重ねる手法により生成された無数の柱状のインク層による独特の表現は、視点の移動に伴い様々な色の変化をみせ、これまで多くの鑑賞者を驚かせてきました。本展では、5メートルを超える大作《波絵》をはじめ、版画の概念を覆しながら、立体作品、インスタレーションと表現世界を自在に広げていく小野の作品を紹介します。

小野耕石 1979(昭和54)年-

岡山県倉敷市生まれ。2004年東京造形大学絵画専攻版表現コース卒業。2006年東京藝術大学修士課程油画専攻版画科修了。版画・平面作品の概念を覆す作風は様々な媒体で取り上げられ、各界から高い注目を浴びる若手作家。町田市立国際版画美術館、ティコティン日本美術館、岡山県立美術館、吹上美術館、京都市美術館、高松市美術館に作品が収蔵されている。

版の美 I、夏の展覧会、小原古邨展に引き続き第4弾

半券コレクションカード用チケット配布！



「版の美」シリーズ I～IVと「夏の展覧会」のチケットに掲載している作品画像を切り取って集める「半券コレクションカード」を実施しています。

すべて集めると美術館スペシャルグッズをプレゼント！

【本展に関するお問い合わせ先】

茅ヶ崎市美術館 担当学芸員：藤川 悠 広報担当：城之内さき

TEL: 0467-88-1177 FAX: 0467-88-1201 E-mail: bijutsukan@chigasaki-arts.jp

「榛の会」(はんのかい) 活動期間:1935(昭和10)– 1955(昭和30)年頃



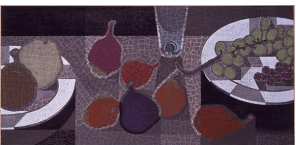
童画家であった武井武雄(1894–1983)が主宰し、1935年から20年余続いた版画による年賀状交換会のグループ。版画で制作した年賀状を送り合うことで、会員が互いに版画の技を高めることを意図し、棟方志功、恩地孝四郎、駒井哲郎、関野準一郎など、著名な版画家たちを含む総勢161名が参加。今回作品を出展する馬淵録太郎、馬淵聖も参加。作品の出来が良くないと次の年は参加できないというルールも設けられていた。主宰の武井は、本の形で刊行する美術作品「刊本作品」を生涯に139冊ほど制作している。1961年に制作された刊本作品No48「宇宙裁縫師」では、本格的な西洋木版での制作を馬淵録太郎に依頼した。その当時、写真技術の普及に伴い既に衰退していた中であって本格的な西洋木版を彫ることが出来たのは唯一、馬淵録太郎だけであった。榛の会のアルバムは22巻が刊行されたが、武井の監修により、装丁も大変凝ったつくりであった。当館では戦後1946年に制作された作品集12をはじめ、13、14、16、17の5巻を所蔵。

馬淵録太郎(まぶち・ろくたろう) 1890(明治23)– 1992(平成4)年



神奈川県横浜市に生まれる。父の勧めにより、合田清(木口木版画家)と山本芳翠(洋画家)により創設された生巧館(せいこうかん)に約9年在籍し、木口木版の技術を習得。1900年代に沸き起こった創作版画運動にも関心を持ち、山本鼎や岸田劉生と交流をもった。1912年、日能写真製版印刷所(後の安全印刷株式会社)の意匠部に就職。写真印画修正等の仕事に携わる。1917年に独立し、京橋に太郎吉図案所を創業。エアープラシ写真修正業の草分けとなる。1937年、横浜市鶴見区に移転。1945年、京浜大空襲にて家財一切を焼失、一時新潟県へ疎開するが、年内に横浜に戻る。1967年、第8回日本版画会展に「南瓜と菜豆」を特別出品、以降第21回展まで出品を重ねた。1970年、茅ヶ崎市芹沢に移転し、住居周辺の風景などを題材に小品を制作。今回の出展作品も芹沢が舞台となっている。1979年、茅ヶ崎市教育委員会主催より茅ヶ崎市文化資料館特別展「馬淵録太郎木口木版画展」が開催され、自身も講演を行った。なお、この時同じく木口木版画家である柄澤齊と出会っている。1985年、私家版「木口木版伝来と余談」を出版。当館では5点を所蔵。

馬淵聖(まぶち・とおる) 1920(大正9)– 1994(平成6)年



東京市京橋区(現・中央区)に生まれる。父は馬淵録太郎。1941年、東京美術学校(現・東京藝術大学)工芸科図案部を卒業。卒業制作「木版による自然物の装飾的表現」が文部省買い上げとなる。戦後、横浜市鶴見区へ転居し(のち神奈川県、藤沢市へ居を移す)、父の経営する太郎吉図案所に勤める傍ら創作活動を行う。版画による色面表現を探求し、モザイク効果を取り入れた作風など、洋画に負けない強く重厚な作品づくりを目指した。1956年、オリヴァー・スタットラー著「よみがえった芸術 日本の現代版画(Modern Japanese Prints: An Art Reborn)」で、山本鼎、恩地孝四郎、平塚運一、棟方志功、川上澄生ら版画家29人の中の1人として取り上げられる。1975年、父の居る茅ヶ崎市芹沢へ転居。なお、創立から関わった日本版画会では1981年に会長に就任。作品は米国シカゴ美術館、ボストン美術館、英国大英博物館など海外の美術館・博物館にも収蔵されている。当館では約170点を所蔵。

柄澤齊(からさわ・ひとし) 1950(昭和25)年–



栃木県日光市に生まれる。1971年に創形美術学校版画科入学し、日和崎尊夫に木口木版画を学ぶ。1973年、創形美術学校版画科卒業、同校研究科加藤清美教室に学ぶ。1974年、創形美術学校研究科版画課程修了。1975年、日本版画協会会員となる。1977年に城所祥、日和崎尊夫、山本進、栗田政裕と「鑿の会」結成。1979年、「鑿の会」に小林敬生を加えて、年刊同人誌『鑿』を始める。1981年、幻想画家のグループ「幻視の森」に参加。翌年解散。北川健次、高柳誠、時里二郎と年刊同人誌『容器』を始める。1991年、『柄澤齊木口木版画集 1971–1991』(阿部出版)刊行。1994年、プライベートプレス梓丁室していしつを開設、エッセイ集『銀河の棺』(小沢書店)刊行。1996年、『柄澤齊木口木版画集 1971–1996』(阿部出版)刊行。2002年、処女小説「ロンド」出版。2002年から04年にかけて「目展」(高島屋巡回)に参加。2006年、栃木県立美術館／神奈川県立近代美術館鎌倉館で回顧展開催。当館では16点を所蔵。

広報用画像

画像の使用をご希望の場合は広報までお問い合わせください。 広報担当:城之内

TEL : 0467-88-1177 FAX : 0467-88-1201

E-mail : bijutsukan@chigasaki-arts.jp

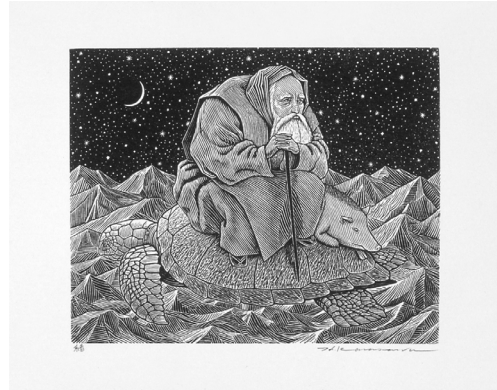
【画像使用にあたってのお願い】

※使用目的は、本展のご紹介のみに限ります。 ※掲載する場合は、作者名と各画像のキャプションを必ず記載してください(下記参照)。

※トリミング、部分使用、文字乗せ、色調変更はご相談ください。



① 柄澤齊《ZIPANGU 日本の昔話による10のカリカチュア 10 かぐや姫》
木口木版・紙 1999年



② 柄澤齊《ZIPANGU 日本の昔話による10のカリカチュア 9 浦島太郎》
木口木版・紙 1999年



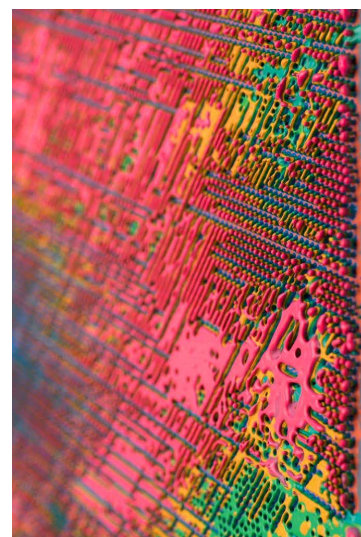
③ 馬淵録太郎《夏の野佛》木口木版(多色)・紙 1972年



④ 馬淵聖《無花果》木口木版・紙 1962年



⑤ 小野耕石《波絵 Namie》© 小野耕石・Tokyo Publishing House 2017年



⑥ 小野耕石《Hundred Layers of Colors》撮影:長塚秀人